
毎日三枚小説『三度の飯より君が好き』

藍田いずる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

毎日三枚小説『三度の飯より君が好き』

【Nコード】

N8282I

【作者名】

藍田いずる

【あらすじ】

今日はご飯のお話です。

毎日三食食べるとして、365日で1095食べる事になる。つまり僕は1095回ぐらいの地獄を見てきた事になる訳だ。

彼女の待つ家に帰る途中僕はそんな馬鹿な計算をしていた。

彼女とは付き合ってから一年半が経つ。一年前に一緒に暮らすことになって彼女は毎日ご飯を作ってくれる。気も利くし、話も面白くて顔を可愛いと僕は思っている。

でもただ彼女は恐ろしく料理が下手なのだ。僕はたくさん飯を食う人間だったけど、今じゃご飯（それがご飯と言えるか謎だが）一杯でお腹いっぱいだ。

見た目だけでもう食欲が失せる。匂いを嗅ぐと顔を背けなくなる。一口食べると吐きそうになる。一体どんな味覚をしてるのか全くわからない。そのくせ外で食べようと云っても聞かないし、僕が作るうか？と願い出ても「私のご飯が食べたくなかった？」と泣きついてくる。

僕はため息を付いて駅を降りる。今日は僕の誕生日。一緒に暮らし始めた最初の日。あの頃はすこしづつ美味くなればいいと思っていたけど、一年間で何の進歩もしないとは、もう希望が持てなかった。駅前を歩くとラーメン屋から漂ってくる豚骨の匂いがする。誕生日ぐらい美味しい物が食べたい。

きつと彼女は怒るだろう。自分でもそれぐらい判ってる。でも豚骨の匂いは強烈で僕の足はラーメン屋に向かった。頑固親父がやってる地域で五本の指には入る有名店だ。

僕はチャーシュー麺の特盛り（いつも僕が食べていたものだ）を頼み、わくわくしながらラーメンを待った。麺は博多風の細麺バリ肩で豚骨特有の臭みがある。1センチ位に切った豚バラのチャーシューが麺の上のにり海苔とメンマと半熟卵が隙間に浮かんでいる。

涎が口の中に溢れ、僕は麺を啜り、チャーシューを嚙った。

首を捻る。なんて脂っこさだ。味も濃くてしょっぱい気がした。一年の間にここまで変ってしまうモノだろうかと憂鬱な気分になった。さすがに残す訳にもいかず、お腹いっぱいになってしまった。家に帰るときつと夕飯が待っている。今日は食後にケーキまで付いているかも知れない……。胃がキリキリしている。

苦しくて仕方が無い。重たい腹を抱えて僕は家に帰った。

家に帰るとやっぱり夕飯が出来ていた。誕生日だからか変なソースのかかったハンバーグとコンソメっぽいスープ。もちろんケーキまでもあった。

「今日は誕生日だから結構腕をふるって作ったんだよ」

無垢な笑みでそう言う彼女は悪気がないぶん残酷だ。

「いやー。僕ちよつと風邪ぎみなんだよね」

そう食べ残すための前振りを欠かせない。いや、なんか食べたくないのバレバレかもしれない。ああ、今日もこのご飯を食べるのか……1095食目の食事。まるで何かの飽食番組の終盤のように感じる。

一口も食べたくなかった。腕も動かないし、肉汁も見なくなかった。

でも僕はテーブルの前に座らせて200グラム以上あるハンバーグを目の前にする。彼女が折角作ってくれたんだ。どんだけ不味くても美味しいと言おう。

意を決して僕はそのハンバーグにフォークを刺した。目をつぶって一気に口を入れる。

舌が味を知った瞬間、僕は何が起きたのか判らなかった。

口をつけたハンバーグはこの上なく美味しくて肉が溶けているのか舌が溶けているのかわからなかった。ついに、舌が狂ってしまったのだろうか？

「どう？ おいしい？」

「ああ、凄く美味しいよ」

「でもご飯は一杯だけだよ」

「どうして？ 美味しいからおかわりしようと思ってただけど？」

「だってまた太っちゃうし健康にも良くないでしょ？」

不味い食事をするようになってから僕は確かに痩せたし、ご飯を食べる量も少なくなった。そういえばラーメンの味も今日は酷く濃く感じた。

まさか……。見上げると彼女がにんまりと笑っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8282i/>

毎日三枚小説『三度の飯より君が好き』

2011年1月12日20時17分発行